



# 寄附講座だより

第 8 号

令和元年 7 月 公立大学法人福島県立医科大学 医療研究推進戦略本部



ごあいさつ

～ 統括副学長・理事長特別補佐 大戸 育 ～  
医療研究推進戦略本部長

寄附講座は、企業等からの奨学寄附金により講座を設置し、本学の自主性及び主体性のもとに教育・研究活動を行うものです。本学は令和元年 7 月末現在、25 の寄附講座を設置しており、それぞれの分野で特色ある研究活動を展開してまいりました。今回は 5 月 21 日、6 月 1 4 日に開催した「平成 30 年度 寄附講座研究活動・成果報告会」の各寄附講座の研究成果をご紹介します。

(※寄附講座の情報は平成 31 年 3 月 31 日時点の情報を掲載しております。)

## ○ 地域救急医療支援講座

設置期間	平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
研究テーマ	福島市における救急医療に対するニーズ及び受療動向に関するデータの収集及び分析
研究体制	講座主任：紺野慎一 教授：伊関憲、小野寺誠 助手：上野智史、全田史栄、三澤友誉
寄附者	福島市
平成 30 年度研究成果	①救急医療学講座と連携し、福島市内の 4 医療機関において救急医療の受療動向の調査や臨床データの集積、救急医療の教育・研修プログラムの構築に係る研究を実施した。 ②福島市内に勤務する臨床研修医を含めた症例検討会や、福島県内の中学生に対する心肺蘇生法と AED 教育、福島市消防に対するワークステーションを行った。 ③ふくしま健康マラソン大会における救護活動を行った。

## ○ 地域産婦人科支援講座

設置期間	平成 31 年 1 月 1 日～令和 5 年 1 2 月 31 日
研究テーマ	産婦人科分野における腫瘍及び若年発症の感染症に関する研究
研究体制	講座主任：藤森敬也 教授：本多つよし 講師：西山浩 助手：小島学
寄附者	いわき市医療センター
平成 30 年度研究成果	①いわき青少年の人工妊娠中絶と性感染症撲滅キャンペーンで、標語やポスター、4 コマ漫画などを募集して、優秀作品を表彰、展示した。 ②引き続き、性教育に関する講演活動に従事して、子宮頸がん検診受診率向上を訴える。 ③メソテリンの検体採取は終了し、現在そのデータに関して検討中である。

## ○ 白河総合診療アカデミー

設置期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
研究テーマ	総合診療領域の臨床研究、地域住民の疾病発症予防や健康寿命の延伸に資する研究
研究体制	講座主任：福原俊一 客員教授：野口善令、新谷歩、前原和平 特任教授：清田雅智、草場鉄周、大森孝一 准教授：東光久、竹島太郎 講師：宮下淳 助手：林理生 理事長付特命教授 Thomas S Inui
寄附者	福島県厚生農業協同組合連合会
平成 30 年度研究成果	①自治体の保健事業、地域の健康増進に貢献した。 ②上記地域の健康増進に貢献するための研究成果発信、英文学術論文 6 編、21 件の学会発表。 ③初期研修医の募集定員のフルマッチを達成、後期研修医対象に、臨床研究遠隔学習プログラムを用いたトレーニングを行い、後期研修医の臨床研究遠隔学習プログラム(gMAP)受講・修了研究計画の実践につなげている。診療においては、入院病床 46 床、外来 3 ブース、日中救急搬送救急搬送応需率 85%程度で年間 3000 台超を 2 年連続で突破した。

### ○ 肺高血圧先進医療学講座

設置期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日
研究テーマ	肺高血圧症モデルマウスを用いた肺高血圧症の分子学的機序解明と肺高血圧症治療に関する臨床的データの検討
研究体制	講座主任：竹石恭知 准教授：杉本浩一
寄附者	アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン(株)
平成30年度研究成果	①肝線維化マーカーの7S domain of collagen type IV が、左心疾患由来肺高血圧症の予後予測因子となることを論文報告。 ②肺動脈形成術が、右室肥大による心電図変化を改善することを報告。 ③エンドセリン-1 が肺動脈内皮細胞のActivin receptor like kinase-1 の発現を亢進させることを報告。 ④竹田総合病院にて肺高血圧症専門外来を新設した。

### ○ 生活習慣病・慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座

設置期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日
研究テーマ	CKD並びに生活習慣病の発症・重症化予防のための地域保健医療連携システムと多因子・集約的治療の開発
研究体制	講座主任：風間順一郎 特任教授：渡辺毅、旭浩一 教授：島袋充生 准教授：田中健一 特任准教授：待井典剛
寄附者	興和創薬(株)、中外製薬(株)、小野薬品工業(株)、その他2社
平成30年度研究成果	①大規模な外来通院患者並びに一般住民コホートをを用いた研究により、CKD並びに生活習慣病の診療実態の把握、発症・重症化・死亡の要因解析を行い、国内外で多数の論文・学会発表を行った。 ②前年度まで構築された「福島市CKD重症化予防連携システム」の新規連携と多職種連携を推進した。 ③「福島県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」（県、県医師会、福島県糖尿病対策推進会議）の策定を主導した。 ④「腎健診受診者に対する保健指導、医療機関紹介基準に関する提言（日本腎臓学会）」を分担執筆公表した。 ⑤厚労科研政策研究班、AMED研究においてや腎疾患対策、診療ガイドラインの改訂・策定に参画した。 ⑥地域の保健医療関係者（多職種）、一般市民を対象とした講演、研修会、啓発活動などの啓蒙を行った。

### ○ 東白川整形外科アカデミー

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	整形外科疾患における効果的・効率的な医療供給体制の確立。研究テーマの検討と埴地区からの新規医療の発信。
研究体制	講座主任：紺野慎一 教授：茂呂貴知 助教：関忍、佐藤亮太
寄附者	福島県厚生農業協同組合連合会
平成30年度研究成果	①埴厚生病院整形外科の入院患者動向を調査した。 ②東白川地区のリウマチ専門医と非リウマチ専門医連携の会（COTTAGE）を推進した。 ③膝関節と手の新規解剖学的研究を立ち上げた。

### ○ 疼痛医学講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	慢性の痛みの要因の多面的評価と新たな治療法の開発
研究体制	講座主任：矢吹省司 特任教授：ロバート・マイヤーズ、松平浩 准教授：高橋 直人 特任准教授：笠原諭
寄附者	公益財団法人 星総合病院
平成30年度研究成果	①独自の入院型ペインマネジメントプログラムの運用を開始し、まだ短期成績であるが良好な成績を得ている。 ②そのプログラムの成果を学会や論文で発信することができた。全国からの見学者も受け入れ始めた。 ③厚労省の慢性疼痛診療体制構築モデル事業に採択され、北海道・東北での疼痛診療体制構築に向けて準備をした。

### ○ 周産期・小児地域医療支援講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	周産期・小児医療支援システムの構築と地域密着型後期研修プログラムの研究及び開発
研究体制	講座主任：細矢光亮 教授：藤森敬也、桃井伸緒 講師：安田俊
寄附者	須賀川市（鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町）
平成30年度研究成果	①須賀川地方の周産期・小児医療に関する医療統計を実施した。 ②国立病院機構福島病院において周産期医療の動向の調査・分析を行った。 ③公立岩瀬病院において小児科・周産期医療の受療動向の調査・分析を行った。 ④診療応援体制と小児科及び産婦人科医師育成のためのプログラムの研究及び開発を行った。

### ○ 地域整形外科支援講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	整形外科四肢外傷の治療に関する研究
研究体制	講座主任：紺野慎一 教授：江尻荘一 助手：半田隼一、亀田拓哉
寄附者	いわき市医療センター
平成30年度研究成果	①マイクロサージャリーを駆使した皮弁移植や骨再建法を用いて、大学病院と同レベルの重度四肢外傷治療を行った。寄付講座の手術件数は年間517件、磐城共立病院整形外科全体では年間2206件であった。 ②四肢外傷再建症例の治療成績について、全国学会で中間報告を行った。 ③外傷再建医の緊急招集システムを稼働させ、県内の各医療施設と連携した治療を行った。 ④後期研修医を増員し、重度四肢外傷治療の研修・教育を施行した。

### ○ 外傷学講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	外傷データベースの構築と外傷データベースを用いた外傷治療成績評価法の確立及びPET-CTを用いた骨関節感染症の診断法の確立
研究体制	講座主任・教授：松下隆 教授：寺本司、竹中信之 講師：加藤成隆、浅原智彦 助教：高木基行、原田将太
寄附者	一般財団法人 脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①データベースへの情報の蓄積を行った。FFNデータベースへの出力方法や評価項目について検討した。 ②骨関節感染症に対してPET-CTを行い、臨床データを蓄積した。特に感染の局在診断を病理学的所見と合わせて分析し、現在論文投稿中である。

### ○ 消化器内視鏡先端医療支援講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	消化器内視鏡先端医療の支援、新たな医療機器の開発、門脈血行異常症の研究
研究体制	講座主任・教授：小原勝敏 特任教授：齋藤行世 特任准教授：斎藤文字
寄附者	一般財団法人 脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①人材育成のための「胃静脈瘤内視鏡治療トレーニングキット（福島県立医大方式）」の開発を行った。 ②新たな内視鏡治療の導入（EIS, EUS-FNA）および内視鏡医の育成を行った。 ③定点モニタリングを用いた疫学的調査による患者のデータベース構築のための登録を行った。また、EBMに基づいた「門脈血行異常症 新規診療ガイドライン」を作成した。

### ○ 生体機能イメージング講座

設置期間	平成27年10月1日～令和2年9月30日
研究テーマ	PET用生体機能探索プローブの開発とその臨床応用
研究体制	講座主任・教授：石渡喜一
寄附者	一般財団法人 脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①新たなPET薬剤としてがんの低酸素イメージング剤の <sup>18</sup> F-FRP-170と <sup>18</sup> F-FMISO、脳循環代謝測定用の <sup>15</sup> Oガス（保険診療）が承認され、これまで10薬剤の臨床使用が可能になった。 ② <sup>11</sup> C-プレラデナント PETによりパーキンソン病治療薬であるイストラデフィリンのアデノシンA <sub>2A</sub> 受容体占拠率を評価した。 ③BNCTの実臨床を前提として、 <sup>18</sup> F-FBPAと従来のPETがん診断薬の <sup>18</sup> F-FDGと <sup>11</sup> C-メチオニンの比較研究を開始した。

### ○ 外傷再建学講座

設置期間	平成27年10月1日～令和2年9月30日
研究テーマ	外傷治療及び再建治療に関する研究
研究体制	講座主任・教授：伊藤雅之、講師：畑下智、鈴木敏之 助手：佐藤俊介
寄附者	一般財団法人温知会 会津中央病院
平成30年度研究成果	①外傷診療体制を確立し、治療及びデータ収集を行った。 ②得られたデータの解析結果や症例報告等を各学会にて発表し、他施設への認知を促進した。 ③メディカルスタッフの育成として、看護師・理学療法士による学会発表や理学療法士による論文発表を支援した。

### ○ スポーツ医学講座

設置期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	スポーツ外傷・傷害に関する研究
研究体制	講座主任・教授：沼崎広法 特任教授：大歳憲一 助手：加賀孝弘、伊藤文人
寄附者	一般財団法人 脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①国内外の各学会でスポーツに関する演題を発表し、論文化した。 ②県内各地で野球検診・メディカルチェックを行った。

### ○ 多発性硬化症治療学講座

設置期間	平成27年10月1日～令和2年9月30日
研究テーマ	多発性硬化症(MS)、視神経脊髄炎(NMO)の臨床、画像、病態的解析、及び治療法の開発、並びに関連諸科との連携による総合的な医療・ケアシステムの構築
研究体制	講座主任：金井数明、教授：藤原一男 特任教授：田中恵子
寄附者	一般財団法人 脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①MOG抗体関連大脳皮質脳炎の2型を計50例集積し、臨床経過、画像、治療反応性などを解析した。 ②視神経脊髄炎の再発予後に関連因子を検討し、最後野症候群の特徴と重症度分類を作成した(Neurology, Brain誌に発表)。 ③アジア多発性硬化症学会(PACTRIMS)の理事長に選任され、医療、学術、社会啓蒙に関する新たな活動を開始した。

### ○ 医療エレクトロニクス研究講座

設置期間	平成27年12月1日～令和2年11月30日
研究テーマ	医療機器の開発・応用を目指す医療エレクトロニクス・生体エレクトロニクスの研究
研究体制	講座主任・教授：山下俊一 教授：下村健寿、織内昇 特任教授：寺嶋一彦、安藤興一、原孝光、原量宏、多田哲生
寄附者	医療法人社団 小野病院
平成30年度研究成果	①摂食行動における脳内制御回路を、ウィルスベクターを用いた手法ならびに電気生理学的手法を用いて検討を行った。 ②睡眠/覚醒のリズム形成が摂食行動に与える影響を細胞レベルで検討し、肥満治療への基盤となるデータを発表した。

### ○ 心臓調律制御医学講座

設置期間	平成31年1月1日～令和3年12月31日
研究テーマ	不整脈疾患の病態解明と治療法の確立
研究体制	講座主任：竹石恭知、准教授：金城貴士
寄附者	アポットメディカルジャパン(株)、バイオトロンニックジャパン(株)、日本光電工業(株)
平成30年度研究成果	①心房細動に対するクライオバルーンアブレーションの合併症である食道粘膜障害の機序、及び規定因子について明らかにした。 ②ホルター心電図による再分極異常および自律神経障害を示す指標の組み合わせが、心不全増悪による再入院を含めた心イベントを予測しうることを明らかにした。 ③インスリン抵抗性が、心房細動アブレーション後の再発に関する独立した予後予測因子であることを明らかにした。

### ○ 心臓病先進治療学講座

設置期間	平成28年1月1日～令和2年12月31日
研究テーマ	心血管病・睡眠時無呼吸症候群の包括的診療体制の構築
研究体制	講座主任：竹石恭知、教授：義久精臣、助教：三阪智史
寄附者	フクダ電子(株)、フクダライフテック(株)、フクダ電子南東北販売(株)、フクダライフテック南東北(株)
平成30年度研究成果	①心臓病における睡眠時無呼吸症候群(SAS)合併に関するスクリーニングや治療効果の検討・検証を行った。 ②SAS診療の啓蒙、普及(市民、学生、メディカルスタッフ、医師)を行った。病診連携を進めた。 ③心血管病における呼吸機能検査、脈波検査、心肺運動負荷テストの重要性に関する論文、学会発表を行った。 ④心不全における併存疾患・併存病態の重要性に関して、論文、学会発表を行った。

### ○ プロGRESS DOHaD 研究講座

設置期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	DOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)の研究
研究体制	講座主任・教授：志村龍男、特命教授：吉井淳治、特任教授：福岡秀興、准教授：三村耕作
寄附者	株式会社ライフバンクジャパン
平成30年度研究成果	①出産時の生体サンプルを用いた分析項目の検討を行い、臨床試験として倫理委員会の承認を得た。 ②上記臨床試験として出産時胎盤、臍帯血、母体末梢血液の採取を開始した。 ③担癌状態での腫瘍免疫について解析を行った。

### ○ 先端癌免疫治療研究講座

設置期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	細胞医療に関する技術ノウハウの提供及び研究開発
研究体制	講座主任・教授：大戸斉、特任教授：柴田昌彦、准教授：三村耕作
寄附者	テラ株式会社
平成30年度研究成果	①癌免疫療法に関する研究と新規の治療法の開発 ②先端癌免疫治療研究連絡会（臨床試験の運用など、月一回開催） ③ふくしま再生医療産業化協議会（企業コンソーシアム）の設立、運営協力 ④癌免疫療法の医師主導治験を支援する。

### ○ 神経再生医療学講座

設置期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日
研究テーマ	脳出血・脳梗塞患者に対する、脂肪組織由来幹細胞による再生医療治療の開発とその作用機序の解明
研究体制	講座主任・教授：金井数明、教授：宇川義一、教授：菱田良平
寄附者	一般財団法人温知会 会津中央病院
平成30年度研究成果	①脳出血患者5例に、脂肪由来幹細胞を外科的手技により直接患部に挿入治療を行った。治療手技は成功して、現在治療経過をフォローしている。 ②頭蓋外よりの磁気刺激により、神経可塑性を誘導し、神経組織の再生を促す技術を正常人に応用し、その結果を国際誌に発表した。

### ○ 低侵襲腫瘍制御学講座

設置期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日
研究テーマ	消化器癌に対する集学的かつ低侵襲な治療法の開発
研究体制	講座主任・教授：紺野慎一、教授：本多通孝 助手：外館幸敏、濱田晃市、山口久志、中山祐次郎、河村英恭、小林拓史、橋本克彦、小柳亮太、叢岳、堀創史
寄附者	一般財団法人脳神経疾患研究所
平成30年度研究成果	①県内のがん診療連携拠点病院との共同コホートを確立した。ステージⅣ期の消化器癌について県内の悉皆性の高い予後予測モデル研究を開始している。 ②胃癌、大腸癌の腹腔鏡手術件数を増やし、術後患者の身体活動量・食生活の調査研究を開始した。 ③口腔外科との共同研究で、消化器癌患者の口腔内環境と術後合併症との関連を明らかとした。英文論文を投稿し、リバイス中である。

### ○ 肥満・体内炎症解析研究講座

設置期間	平成31年1月1日～令和3年12月31日
研究テーマ	肥満と体内炎症解析、及びオキシトシンとの関連の研究
研究体制	講座主任：下村 健寿、特任教授・准教授：前島 裕子
寄附者	医療法人陽心会
平成30年度研究成果	①肥満に関してオキシトシンが果たしている役割をマウスと用いて検討を開始した。

## ○ 災害医療支援講座

設置期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日
研究テーマ	災害医療に関する研究、被災地の医療ニーズの研究
研究体制	講座主任：紺野愼一 教授：小柴貴明、入江嘉仁、小鷹昌明 特任教授：清水昭、久保肇、西川光一、佐藤勝重 特任准教授：西村哲郎、庄司敏 講師：赤津賢彦、社本博 特任講師：深田靖久 助教：坪井栄俊 特任助教：堀有伸、二瓶大 助手：宮川明美、北川彰信、上西博、遠藤由樹
寄附者	東北アルフレッサ(株)、(株)東邦銀行、(株)福島民報社、一般財団法人福島民報教育福祉事業団、医療法人社団裕和会、(株)東芝、Johnson&Johnson、協和発酵キリン(株)、安田泌尿器クリニック
平成30年度研究成果	①震災後、ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者の動向について調査した。 ②相双地区の超高齢者（85歳以上）に対する麻酔と周術期について考察した。 ③いわき地区における経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）100例を報告するとともに、今後の課題と対応策について考察した。 ④震災後、バスキュラーアクセス(VA)外来を開設についての成果を報告するとともに、今後の課題について考察した。

## ○ 腸内環境病態医療学講座

設置期間	平成28年5月1日～平成31年4月30日
研究テーマ	腸内環境とがん・生活習慣病等の病態・予防に関する包括的研究
研究体制	講座主任：錫谷達夫、教授：大原正志
寄附者	社会医療法人福島厚生会
平成30年度研究成果	①機能性乳酸菌食品の大腸発癌予防機構についての研究結果を論文に纏め報告した。更にヒト大腸癌培養細胞において短鎖脂肪酸の大腸抗腫瘍効果の作用機序を論文に纏め投稿中である。 ②大腸癌、潰瘍性大腸炎についての腸内環境からの病態解析（糞便・粘膜上皮微生物叢の解析とその機能解析）結果を論文に纏め投稿中である。 ③2型糖尿病患者の糞便微生物叢解析及びメタゲノムから2型糖尿病発症リスク微生物を絞り込み、現在それらの解析データを味の素イノベーション研究所と共同で論文化に向けて準備中である。 ④糞便微生物移植治療の臨床応用への可能性を探るため、慢性難治性便秘症に対して行った糞便微生物移植治療後の移植微生物の消長についての検討を行った。その結果レシピエントに有益な蠕動運動能に関わる遺伝子を誘導するドナー由来の微生物が、中・長期に亘りレシピエント腸内に存在することを見出し論文に纏め報告した。



### 寄附講座アドバイザー

寄附講座の研究活動について、幅広い視点や知見からの評価及び助言等を行い、寄附講座の研究活動を推進し、より効果的な成果を上げられるよう支援を行うため、本学が外部有識者に委嘱しております。

公立大学法人会津大学	理事	岩瀬次郎氏
公益財団法人福島県産業振興センター	理事長	鈴木清昭氏
福島県住宅生活協同組合	理事長	和合アヤ子氏
福島県中小企業団体中央会	副会長兼専務理事	熊本俊博氏
公益社団法人福島県看護協会	会長	今野静氏
一般財団法人大原記念財団大原総合病院	副理事長兼統括院長	佐藤勝彦氏

#### ■ お問い合わせ

公立大学法人福島県立医科大学 医療研究推進課  
TEL：024-547-1790（内線 2790）  
e-mail：liaison@fmu.ac.jp